



・税理士  
・税理士法人  
タックスサポート・イトカズ  
那覇事務所 所長

糸数弘和  
(いとかずひろかず)

## 相続税の気になる改正

2011年度税制改正で相続税の大幅な改正が予定されています。この改正で相続税がかかる人の範囲が広がられます。今回はよく相談を受ける話を中心に、税制改正の影響とその対策を考えてみたいと思います。

### 1.「相続税ってどんな税金ですか？」

人が亡くなった時、夫婦であれば配偶、親子であれば子へ故人の財産を移転することを相続といいます。相続の際にかかる税金が相続税です。日本の税法はある程度財産を成した人に対し、富を社会の中で再分配するという目的で相続税を設けています。また一定の金額の財産を持つ人を対象としているので誰でもかかるわけではありません。この金額が最初に触れた基礎控除です。皆様でも「5,000万円は大丈夫」とご存知の話ですが、今回税制改正で表のとおり変わります。

	平成23年改正	(参考)従前
基礎控除	3,000万円	5,000万円
相続人等 家族一人あたり	600万円	1,000万円
計	3,600万円	6,000万円

### 2.「誰が相続税かけるんですか?そこまで税務署って調べるんですか?」

相続税は自主申告ですので、原則として税務署が課税しません。しかし不動産の保有状況等ある程度公開されている情報を元に、相続税がかかるのに申告されていない場合、問合せをし、さらに返答がない場合に税務調査を行って課税します。調査においては、銀行口座などの確認を通して非常に詳細に調べられ

ます。ここで大事なのは予め自分で申告すればこうした事態にはならないということです。

### 3.「そもそも私が相続税払うことありますか?」

現在4人家族の場合、基礎控除は4800万円になります(=3000万円+(600万円×3人)。この金額を越えなければ相続税はかかりません。財産の金額はまず現金や預金の金額に不動産の金額を足すことになります。土地は路線価(国税庁HP)で評価し、建物は固定資産税の評価額を用います。またこれ以外に保険契約等の金銭的価値があるものは課税財産となります。詳細は税務署や税理士事務所にお問い合わせみてください。以前は複数の財産がない限り相続税は縁がないということが大半でしたが、那覇市周辺など、路線価が高い地点では自宅だけが財産でも相続税がかかる可能性があります。上記のHPや税務署などで路線価を確認してみることをお勧めします。

### 4.「生きている間に子どもに財産をあげちゃえば相続税かからないでしょ」

親御さん等、元気なうちに子どもへ財産を全て渡してしまえば相続税はかかりません。しかし渡した年に日本の税法でも最も負担が重い税金である贈与税を納めなければなりません。また、意外と知られていませんが、贈与税は“時効”といわれるものが6年間と長く設定されており、しっかり自主申告しておかないと怖い税金です。また相続の際、遡って3年前まで贈与された財産は相続税において改めて計算し、既に払った贈与税と精算計算をします。贈与税の非課税枠(年間110万円)を利用していた場合は相続税で改めて課税される結果になりますので注意が必要です。

今回は税金の話を中心にいろいろと考えてみましたが、様々な事情により、人生の契機になってしまうかもしれないのが「相続」です。財産をどうやって自分の子孫に渡していくのかという視点が大事になります。思いの清算という面でも、ご家族で考えてみてはいかがでしょうか。

# 閑談中国

Vol.7

ジャーイオウ  
沖縄の高校生、加油!ガンバレ!



愛媛女子短期大学  
国際ビジネスコミュニケーション学科 教員  
謝 曉軍 (しゃぎょうくん)

日本の多くの高等学校で中国語教育がおこなわれています。昨年12月に行われた全国高校生中国語スピーチコンテストに教え子の学生と一緒に参加しました。その時の学生たちのスピーチの様子をご紹介します。

全国で中国語教育を実施する高校の数は、1986年には46校だったが、2009年には831校となっている。なかでも沖縄県は中国語の開設率が最も高く、県立高校約3校に1校が中国語を開設している。

私は、沖縄県独自のFLT(外国人外国語指導助手)として採用され、去年度まで浦添商業高校で中国語を教えていた。

2010年12月11日に京都外国語大学で「第14回全国高校生中国語スピーチコンテスト」で開催された。北は岩手県から、南は沖縄県石垣島まで、全国28校総勢44名の生徒がエントリーし、私も当時の教え子2名と大会に参加した。

私が全国大会を通じて、感じた事が二つある。

一つ目はその全国大会のレベルの高さ、表現力も豊かさである。声の強弱、感情移入、身振り手振り、様々な工夫が見られた。岩手県から夜行電車 came という高校2年生のA君は、正確な発音、流暢なりズム感、さらに表情や仕草までネイティブのようだった。残念ながら入賞は逃したが、とても素晴らしいスピーチだった。

二つ目は指導する先生によって、生徒達は全く異なるパフォーマンスを見せるということだ。面白いことに44名の発表を聴くうちに、段々と指導した先生が日本人か中国人か、中国の北出身か南出身やまで分かってしまう。さらには、発表のスピードや表現の仕方で先生の個性や人柄まで見えてくるような気がするのだ。男子生徒が、可愛い声や表情で発表していたのを見て、指導教員が女性である事を感じとった時は思わず微笑んだ。

生徒たちは素直で、先生の教えられた通りに習得

していく。一語学講師としての責任の重大さを実感できた。

新聞などメディアを通してご存じの方も多いと思うが、浦添商業高校の2名は、見事に中級部門で全国1位と2位に輝いた。

理代さんは、組踊の舞台で準主役を務めるだけあって、表現力の豊かさがスピーチにも現れている。声に感情をこめ、瞳を輝かせながら抜群な表現力で会場全体を魅了した。大会までの3か月間、練習での厳しい発音チェックにもめげず、いつも笑顔で根気良くついてきてくれた。その成果が実ったのだ。最初は、苦手な発音を直すのに一週間もかかったが、2か月も経つと、ほんの少し指摘するだけで、完璧にできるようになった。

夏姫さんは生徒会長を務め、校外で大東太鼓やエイサー等で地元の観光PRに貢献するなど、学校内外において大いに活躍している生徒だ。ひとつひとつの言葉に魂を込め、堂々と発表し、中級部門で見事全国2位に選ばれた。彼女は、「大学でも、中国語や観光を学び、将来、南大東島をアピールできるようになりたい。女性社長になって、沖縄の観光産業に貢献したい。中国と沖縄の懸け橋になりたい」と熱く抱負を語った。

沖縄でも、彼女たちのように卒業後も、大学や専門学校で中国語を学び続ける生徒が増えてきている。高校卒業後、すぐに中国の大学へ留学する生徒もいる。沖縄は歴史的にも中国とゆかりのある地で、様々な国との交流の中で培われた歴史を持つ。沖縄の高校生が、近い将来、グローバル社会で活躍するのが楽しみだ。沖縄の高校生、加油!ガンバレ!